

「別記曰」

可憐なる籠の鳥を救へ!!

へ来文の傍

六日本報の筆談に就いて市民諸君の御同情に訴ふ (第一報)

我々國民が常に暖い着物を着ることに出来るのは数十万人の可憐なる女工さん達かたはたなく昼となく工場の中へ糸をつむいで呉れる為です。

彼女達は幼くして遠く父母の許を離れて都へ来たのです。而して彼女達を迎へたものは監獄の様な寄宿舎であつた。長い冬を耐へてつらい労働があつた。まづい食物があつた。

けれども彼ら女達はせつせつと傷いて居る。その為に國民は安心して着物を着る。会社は莫大な利益を挙げて配當をして居る。大日本紡績会社橋場工場は先日労働組合に加入したと云ふので救済の名義で真面目な人々を解雇した。従業員は之に反対すると同時に左の如き待遇改善を要求したのである。

- 一 食事は内地米にして下さい。
- 二 通勤手當は今迄通り出して下さい。
- 三 他会社並の退職手當をこしらへて下さい。
- 四 強制休業には日給金額を支払つて下さい。  
(今迄は一日二十五銭であつた)
- 五 採業短縮の解雇者を出さないやうにして下さい。
- 六 労働組合加入の自由を認めさせて下さい。